

平成 7 年 3 月 1 4 日

送
り
先

MB (北陸) システム営業課 御中	丸善 (北陸) 営業課 御中	陸支 営業企画部	陸支 公共ビルシステム部
七宝 システム事業部 御中	NES 情報システム課 御中	(富山) 電力部	(金沢) 半導体・電子デバイス部
JMC 営業課 御中	北菱 情報機器課 御中	FAシステム部	FAシステム部
エム・アイ・エス 御中	MCC (北陸支所) 御中	公共ビルシステム部	電子・情報通信部
陸支 (富山) コ課			



陸支コ課 情報

N o 2 8

内容

- ・ O A 化について 第三回
- ・ 情報誌トピックス — 情報誌は発行責任者保管
 - 日経コンピュータ 3月6日号
 - 日経エレクトロニクス 3月13日号
 - 日経パソコン 3月13日号
 - 日経オープンシステム 3月号
 - LAN TIME 4月号
 - DOS/V magazine 4月号
 - PC WAVE 4月号

ソフトウェアはSRCへ！
キャンペーンも随時実施中
詳しくはSRCニュースを

発行責任者

三菱電機株式会社 北陸支社
電子・情報通信部 コンピュータ課
稲崎義明

3. LANにおける資源共有

LANを導入する目的としてまず揚げられるのが資源共有となるのが、日本的な導入の勧誘となっていました。グループウェアが普及しないだろうとされていたから、それ以外の導入目的としては資源の導入を前面に出すしかありませんでした。

資源の共有化はいろいろなものが資源として共有できると宣伝し、LANシステムの拡販を行ってもしました。

共有化としては、まず物理的なプリンタの共有を行ないました。LANを販売はじめた当時、ページプリンタは大変高価なもので、印刷品質はよいけれども、なかなか導入できるものでは有りませんでした。そこに付け込んでのLANです。1台のページプリンタを複数のパソコンで共有化する事はプリンタの共有だけでなく、プリンタの設置場所の節約などいろいろな効果が宣伝材料となりましたし、それだけでもLANは存在する事ができたのです。初めはパソコンに接続したものを共有して使っていましたから、1台のパソコンは専用のもとなっていました（実際はパソコンとしても使用できるのですが、処理が遅くて使わなくなっていました）。プリンタの共有はいろいろな弊害（プリントするたびに取りにいかなければならない、いつ出力されるかわからず、プリンタの前で待つ事があるなど）がありましたが、LANを導入した効果としてまず揚げられていたものです。

次の共有化は、ファイルの共有化です。ファイルは物理的なものではありませんが、資源として共有化できますと、いろいろと宣伝していたものです。確かに、共通の文書フォーマットや各種データは皆で使う事のできる資源ではあります。しかし、このようなファイルの共有化を行っているシステムはあまりないのではないかと考えられるのが現実です。これも日本的なところなのですが、自分のデータは他人に見せたくない、他人のデータは使いたくないなどの意識があり、なかなか共通に使うことはなかったようです。

ほかに共有化できる資源としては、モデム、回線などがありますが、これらは専用のソフトウェアなどが必要で、この頃「NetWareConnect」などが発売され、これからというところです。また、NetWareでは困難ですが、LAN上のパソコンの能力も資源として利用することができます。これは、各パソコンの状況を管理することによって、LAN全体で負荷の均等化をおこなおうとするもので、例えば、負荷のかかるプログラムを実行しようとする、その処理の一部を負荷の軽いパソコンで処理しようとするものです。このようなことができるのはUNIXのシステムが中心です。

資源の共有化はLAN導入の目的として重要な事は今も変わりません。しかし、実際有効に利用しようとする場合は、ネットワーク管理者が重要になってきます。資源の管理はネットワーク管理者が主導的におこなわなければならないと考えられます。（次回へ）

(情報誌トピックス)

○経コンピタ 3月6日号

特集 電子メール「全社導入計画」

三つのハードルを越えて成功へ

→トップダウン型で電子メールを全社に導入する企業が増えてきている
導入には三つのハードルがある（導入の初期段階で全社員に効果をはっきり見せる、すばやい展開、業務に密着したシステムに展開する）
電子メールは単なる情報の伝達手段から情報システムの一部になり始めている

ケーススタディ 関西国際空港

納期厳守の370万ステップ、リスク回避と物量作戦で完成

→当社が旅客案内情報システムの開発をおこなったプロジェクトの開発と納期厳守などについて解説

リプレスの研究 複雑な不動産業務をパソコンに、地元の実績と価格で選ぶ

→M Q CがNのオフコンのリプレースをおこなった事例

NCセミナー 電子メールの利用を成功に導く

トップダウンで電子メールを導入する

○経エレクトロニクス 3月13日号

特集 「メディア」になるパソコン

→90年代後半に登場するパソコンは、電話を越える「フェース・ツー・フェース」のコミュニケーションツールとなる

1部 <90年代後半のパソコン>

「フェース・ツー・フェース」の会話を実現、電話を越えるメディアに

2部 <リアルタイムな双方向通信>

パソコンを使ったテレビ会議システム、1人に1台のコミュニケーション・ツールへ

3部 <フルスクリーン／フルモーションの動画表示>

M P E Gがパソコンの標準機能へ、手元で自然な動画再生

特集 100MHzASICを動かす設計

→100MHzのASICではタイミング優先の設計が必須になる

1部 <変わるレイアウト設計>

タイミング優先の設計手法が動くチップの必須条件

2部 <EDAツールのサーベイ>

活気づくEDAベンダ、ケイデンス社の独占市場に挑む

講座 マルチメディア

インタラクティブTVとビデオ会議

→米国の通信ネットワーク、光ディスク、M P E Gチップの開発動向

○経済誌 3月13日号

特集 パソコンを買う前に知っておきたい50の知恵

→新機種購入で後悔しないための50の知恵の特集

第一部 パソコン本体編

→98とDOS/Vの違いなど基本知識

第二部 周辺機器編

→ディスプレイからモデムまで

第三部 サポートサービス編

→バージョンアップと有料サポートについて

特集 浸透する台湾パソコン [前編]

日本に根付き始めた“MADE IN TAIWAN”

→エイサーを中心とした台湾のパソコンが着実に日本のパソコンメーカーの製品として販売されている。ボードを用いたものもあれば、OEM製品もある。

先進ソフトウッチ Microsoft Bob

絵本のような画面で操作する新タイプの家庭向統合ソフト

→Bobは家庭用のソフトで、ワープロやスケジューラなどを絵本のような室内の画面の中に組み込んで使用できるようになっている。使用する場合は、机の上の手紙を選んで書くようにしてそれぞれのプログラムを使用する。ガイドは犬がおこなう。

○経済誌 3月号

特集 大規模C/Sビジュアル開発

バックエンド処理をソフト部品化し組み込む

→Windows対応ということでビジュアル開発ツールを大規模C/Sシステムの開発に適用する動きが進んでいる。DB設計、ネットワーク制御などのバックエンド処理の構造上の問題点がみえてきた

I部 構築手法

ビジュアル開発の良さを生かし、大規模C/Sを構築する

II部 ユーザ事例

DB設計に支援ツールを、チーム開発に標準部品を活用する

III部 製品

大規模C/S構築の支援に向け、各種周辺ツールが出始める

シラボ検証 PCサーバ用DBMSとExcelを連携させるミドルウェア

通常のDB検索に十分な性能と機能を提供する

オープンサーベイ 企業内CD-ROM制作ツール

手軽に作れるCD-ROMを業務に活用する

→CDレコーダが20万円を切り、50枚以上の場合プレスする方が安くなる(100枚で800円/枚程度)

○LAN TIME 4月号

特集 基幹系のインフラとしてのグループウェア

→スケジュール管理などのイメージの強いグループウェアだが、全ユーザのネットワーク化に着目するとオフィスでの生産性の向上が実現できる

PART1 オフィスの8割はグループ業務。合理化手段はLAN以外にない!

→ホワイトカラーの生産性向上についてのLAN応用の事例

PART2 インフラとしてのLotus Notesを日本的に使いこなす

→インフラとして利用したグループウェアの活用方法について

PART3 接続環境・開発環境の選択肢増え、本格導入促進の期待高まるNotes

→Notesの不十分な点とツール群

INTEGRATION 自律分散型C/Sシステム構築(上)

業務改善ツールとして自律分散型を使う

→自律分散型とは、その考え方と構築のポイントについて

○DOS/V magazine 4月号

特集 モービルPCを究める

OVERVIEW 持ち歩くPCに関する考察

第一部 モービルテクノロジーを使いこなす

～最新・PCMCIA技術動向から活用まで～

PART1 モービルを支える技術(ハードウェア編)

PART2 モービルを支える技術(ソフトウェア編)

PART3 使うモービルPC

PART4 PCカードカタログ

第二部 サブノート10機種インプレッション

モービルコンピューティングの主役を選ぶ

・サブノートに求められる性能を考える

・サブノートインプレッション

小特集 グラフィックデータ活用自在

・グラフィックデータフォーマット大解剖

・データコンバート入門

・実践編 解像度とグラフィックデータの関係

○PCWAVE 4月号

特集 サウンドカード論

PCの“声の悪さ”に我慢できない人のための

→音の悪いこれまでのサウンドカードのなかで新世代のカードが登場始めたことでよい音の追求が芽生えてきた

PART1 サウンドカードを理解するための「音」のテクノロジー概論

サウンドカードのMIDIインターフェース

PART2 脱「S B 互換」を目指し始めた最新サウンドカードカタログ

WindowsNTとOS / 2 W a r p が標準でサポートするサウンドカード
サウンド機能を埋め込んだA / o p e n のマザーボード「LP5」

PART3 1台のマシンに新旧のサウンドカードを“2枚挿し”して使う

TOPICS 最後の切り札－「M a g i c C a p」搭載のPDA第一弾
米国ソニーのM a g i c L i n k P I C - 1 0 0 0

ABC of PC 専用FAXをPCにつなぎプリンタ / スキャナとして使う
→FAXモデムを使ったPCの使い方

BrowsingNew どうとう電話機能をサポートしてしまったボイスFAXモデムカード
三菱電機の「MF0B-007」
→PCカードモデムにスピーカとマイクをつけ、電話もかけることのできるFAXモデムカード